

第4回 奈良県道路斜面防災点検検討委員会

議事概要

1. 日時：令和8年2月27日 10:00~11:30
2. 場所：奈良県庁 災害対策本部室（オンライン併用）
3. 出席者：

委員長	京都大学 名誉教授	大西 有三
委員	京都大学 工学研究科 都市社会工学専攻 教授	岸田 潔
委員	関西大学 社会安全学部 教授	小山 倫史
委員	京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 准教授	橋本 涼太
委員	国立研究開発法人 土木研究所 地質・地盤研究グループ 上席研究員	浅井 健一
委員	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 道路基盤研究室長	桑原 正明
委員	奈良県県土マネジメント部次長（土木・政策統括担当）	篠田 隆三

4. 議事

- (1) 委員会規約について
- (2) 資料説明
- (3) 質疑・意見交換

主な議事概要

- ・ 法面の検討でSARをこのレベルで使用して整理している例は知る限りでは無い。他県のモデルケースとなり得る良い取り組みと思われる。
- ・ リスク箇所の抽出の際には南北方向斜面の動きや、傾斜角の大きい斜面では精度が低下するため、斜面方位・傾斜角に応じた分類分析の導入が望まれる。
- ・ 災害種別や規模の分類も行うべきであり、種別を分けて考えることが重要
- ・ 被災履歴のある地すべりは、SAR による解析では大規模なものほど累積変動傾向が確認されている。ALOS-4 を活用することで、より前兆を捉えられることに期待する。
- ・ 表層崩壊は雨などの誘因がないと動かないことが多いため SAR での検出は難しいと思われる。
- ・ 岩盤崩壊は、ゆっくりと不安定化が進行する場合であれば SAR が変位を捉えられる可能性はあるものの、実際には崩壊直前に大きく変位して崩壊に至るケースが多いと思われるので、SAR ではその前兆を検知できない場合が多いと考えられる。そのため落石増加などをパトロールで把握するなど、日頃からの監視確認が重要。

- ・ SAR で検出した変状箇所が道路に影響するかのスクリーニングが必須。
- ・ 今後、AI 解析のための教師データ確保のため、道路パトロールは異常がない時の記録もあった方が良い。
- ・ 道路巡回システムに雨量や地震等の事象変化を記録することで検証精度が向上すると思われる。
- ・ 地形判読が評価に占めるウェイトが大きく、詳細な地形判読の実施が重要。
- ・ 今後国から発表されるSARに関する情報や新技術について注視していくこと。